

令和 8 年  
長野県  
農作物病害虫・雑草防除基準

別冊  
【桑】

＜注意事項＞

- ・令和 7 年 11 月 30 日現在の農薬登録内容による。
- ・本防除基準をご使用になる前に、本冊に掲載されている「活用上留意する事項」「特別指導事項」「薬剤抵抗性管理」を必ずお読みください。

## 桑

## ・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
41+25	アグリマイシンー100	散布	-	3回以内	
-	クロールピクリン	土壤くん蒸	-	1回	
1	トップジンM水和剤	散布	-	3回以内	

## ・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	エルサン乳剤	散布	摘採15日前まで	4回以内	
UNM	(マシン油) マシン油乳剤95	散布	-	-	
1	トラサイドA乳剤	散布	発芽前(3月~4月) 及び夏切直後	6回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

病害虫名	防除時期	防除方法	10a当たり散布量	注意事項
赤渋病	6月～7月	1. 春の第1次発病芽を摘除する。 2. 晩秋蚕期に中間伐採収穫を行い、病原寄生部を除去する。 3. 特に激発地では、立通し、夏蚕専用仕立は避ける。 4.		
裏うどんこ病 (裏白渋病)	8月	1. トップジンM水和剤1,500倍液を散布する。	200ℓ	1. 発病初期に散布する。
縮葉細菌病	4月 (発芽期) 6月	1. アグリマイシンー100の500倍液を散布する。	200ℓ	1. 発病を認めたら直ちに防除する。降雨後に発生が多いので注意する。 2. 6月は7日おきに2回散布する。 3. 多発地域では抵抗性品種に更新する。
紋羽病	8月	1. クロールピクリンを30cm四方当たり1穴6～7ml注入する。処理方法は土壤消毒のりんごの項に準ずる。		1. 罹病株は抜根し、よく根を取り除いてから行う。 2. 出来るだけ天地返しをしてから薬剤処理を行う。
萎縮病		1. 発病株は全て掘り取って改植し、生育中の病枝は早急に剪除する。 2. 栽培方法を改善して発病の抑制を図る。 ア 発病桑園は春切をして夏秋専用桑園とする。 イ 交互伐採、間引収穫、残条伐採等の方法により収穫を行い、仕立を高くするようにし過度の収穫を避ける。 ウ 排水を図り、干害を防止し、敷わらや有機物を多く入れ、加里肥料を増施する。 3. 改、補植の場合には耐病性桑品種で、かつ無病苗を選ぶ。 4. 媒介昆虫であるヒシモンヨコバイを防除する。		

病害虫名	防除時期	防除方法	10a当たり散布量	注意事項
カイガラムシ類	4月 (発芽前)	1. マシン油乳剤95の12~14倍液を散布する。	100~180ℓ	1. 若芽に薬害を生じるので、発芽前に散布する。
クワヒメゾウムシ	6月以後 (夏切後)	1. 枯株、枯枝、抜根株等は早期に整理処分する。		
カミキリムシ類	4月 (発芽前) 6月 (夏切直後)	1. トラサイドA乳剤100倍液を散布する。	150~180ℓ	1. 若芽に薬害を生じるので、発芽前に散布する。 2. 株に薬液が十分しみこむようたっぷり散布する。 3. 成虫の捕殺に努める。 4. 防除効果を高めるため、枯株、枯枝、抜根株等は早期に整理処分する。
クワゴマダラヒトリ	4月 (発芽前) 10月	1. 群棲している時期に捕殺を徹底する。		
アメリカシロヒトリ	6月 8月	1. 群棲している時期に捕殺を徹底する。		
ヒシモンヨコバイ (萎縮病)	4月~5月 (脱苞期)	1. エルサン乳剤1,500倍液を散布する。	120ℓ	1. 枝条に丁寧に散布する。 2. 冬期間に越冬卵の寄生部位(枝条の先端1/2)を伐採処分する。

## 総括注意

殺菌剤、殺虫剤の散布に際しては、必ず蚕に薬害の無くなる安全基準日数を確認する。

クロールピクリン、エルサン乳剤、トラサイドA乳剤は魚毒に注意する。

## ・除草剤

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
カーメックスD	全面土壤散布	雑草発芽前	1回 (DCMU 1回)	
カソロン粒剤6.7	全面土壤散布	雑草発生前～発生始期 (春又は夏切直後)	1回 (DBN 1回)	
ゴーゴーサン細粒剤F	全面土壤散布	春期発芽前又は夏切り後 (雑草発生前)	2回以内 (ペソディメタリン2回以内)	
トレファノサイド粒剤2.5	全面土壤散布	桑発芽前、春切後、夏切後 (雑草発生前)	2回以内 (トリフルラリン2回以内)	桑(本畑)
バスタ液剤	雑草茎葉散布	雑草生育期 (春期萌芽前及び夏切り後萌芽前)	3回以内 (グルホシネット及びグルホシネットP3回以内)	
プリグロックスL	雑草茎葉散布	春期萌芽前又は伐採後	3回以内 (ゾクリット3回以内、ハラコート3回以内)	

## ・除草剤 (参考農薬)

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期	使用薬量10a当たり (水量)	使用回数	魚毒	備考
ワンサイドP乳剤	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草茎葉散布	雑草生育期 (イネ科雑草3～5葉期)	75～100 ml/10a (100～150ℓ)	2回以内 (フルアジップP2回以内)	I	
	シバムギ						
	レッドトップ						

注1) 使用回数の欄の記載は、当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

防除時期 及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a 当たり使用量	使 用 法	注 意 事 項
雑草発芽前 全面土壤散布	一年生雑草	カーメックスD (DCMU 80%) 125g	1. 水 70～1000に溶かして噴霧機又は、如露で均一に散布する。	1. あらかじめ除草してから散布する。 2. 土が乾いている時や火山灰土壤では水を多目に使用する。 3. 桑の芽や葉にかかると薬害が生じるので、桑の伐採直後か桑の芽や葉にかけないように注意して散布する。また、砂土では使用しない。
雑草発生前～ 発生始期 (春又は夏切直後) 全面土壤散布	一年生雑草	カソロン粒剤6.7 (DBN 6.7%) 6～8kg	1. 散粒機又は手で均一に散布する。	1. 除草後又は雑草の発生初期に散布する。 2. 土が湿っている時か、降雨の直前に散布する。 3. 砂土では使用しない。 4. 連用は避ける。

防除時期 及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び10a 当たり使用量	使用法	注意事項
桑発芽前、春 切後・夏切後 全面土壤散布	一年生雑草 (ツユクサ科、 カヤツリグサ 科、キク科、ア ズラナ科を除 <)	トレファノサイド粒剤2.5 (トリフルラリン 2.5%) 4~6 kg	1. 散粒機又は手 で均一に散布 する。	1. トレファノサイドは除草後又は 雑草発生前に散布する。 2. ゴーゴーサンは除草後(雑草発 生前)に散布する。また、キク科 雑草、ツユクサには効果が劣る。
春期発芽前 又は夏切後 全面土壤散布	一年生雑草	ゴーゴーサン細粒剤F (ベンデイメタリン 2%) 6 kg		
春期萌芽前又 は伐採後 雑草茎葉散布	一年生雑草	プリグロックスL (ジクワット 7%、 パラコート 5%) 1,000ml	1. 水 100~150ℓ に溶かして噴 霧機で雑草の 茎葉に散布す る。	1. 雜草が小さいうちに散布する。 2. 除草剤に適用のある展着剤を加 用する。 3. 桑の芽や葉にかかると薬害が生 じるので注意する。 4. ジクワット、パラコート剤は毒 物であるので、吸い込んだり、皮 ふに付かないように注意する。
雑草生育期 (春期萌芽前 及び夏切後萌 芽前) 雑草茎葉散布	一年生雑草	バスタ液剤 (グルホシネット 18.5%) 300~500ml	1. 水 100~150ℓ に溶かして噴 霧機で雑草の 茎葉に散布す る。	
雑草生育期 (イネ科雑草 3~5葉期) 雑草茎葉散布	一年生イネ科雑 草(スズメノカ タビラを除く)	[参考農薬] ワンサイドP乳剤 (フルガップP 17.5%) 75~100ml	1. 水 100~150 ℓに溶かして 噴霧機で雑草 の茎葉にスパ ット散布す る。	1. 除草剤に適用のある展着剤を加 用する。 2. 除草効果の発現が比較的遅いの で雑草が完全に枯死するまで刈 り取らない。 3. 広葉雑草には効果がなく、桑にか かっても薬害の心配がない。 4. 周囲にイネ科作物がある場合は 薬液が飛散しないように注意し て散布する。